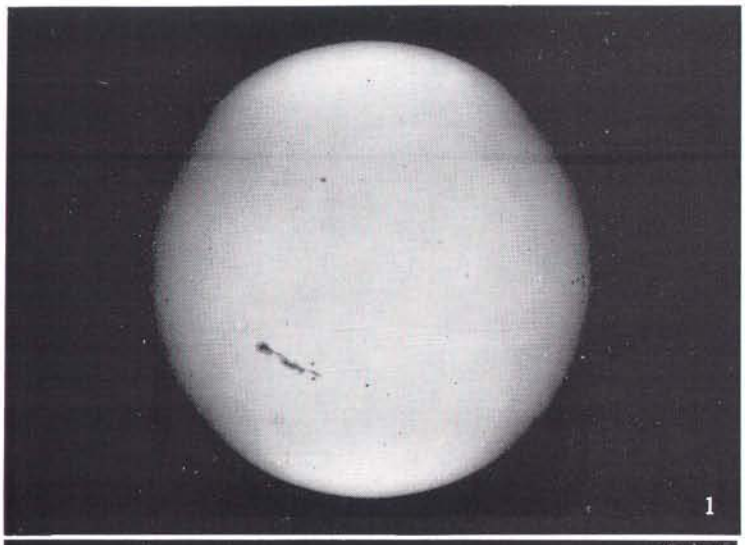

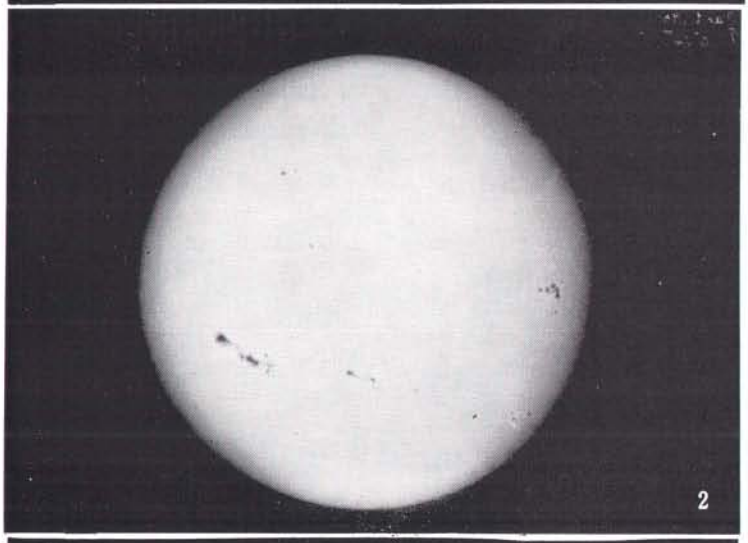

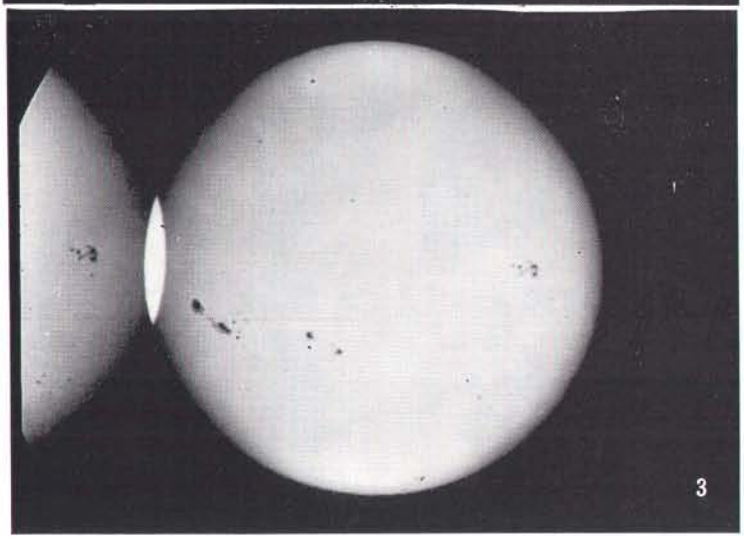

最近出現した太陽の大黒点

太陽活動の極小期も終って，最近は再び黒点が頻繁にあらわれるようになった．ここに，2月の終わりから3月のはじめにかけて観測された，大黒点の写真を掲げる．出現は 1967 年2月 21 日，中心子午線通過は2月27日，潜入は3月6日であった．

下に示す写真は，①は2月28日10時43分30秒(J.S.T. 以下同じ) ②は3月1日 10時 24 分 10 秒，③は3月2日 10 時 49 分 00 秒，いずれも東京天文台10cm 太陽写真儀で撮影．③の写真で，左側にうつっている像は，望遠鏡の日周運動を止めて撮して，方向のマークを入れたもので，左側が西であることを示している．

し し 座 流 星 群

昨年 11 月 17 日の暁方に，アメリカでしし座の大流星群が見られた．（本誌 3 月号記事参照）．最近東京天文台を訪問された Dave McLean 氏は，アリゾナの Kitt Peak 天文台で，ペンタックス・カメラでこの流星を撮影され，本誌に提供して下さった．時刻はアメリカ山岳標準時の 5 時ごろ，絞は $f/2$．フィルムは Tri-X Pan，現象は D-19 で 12 分とのことである．

①は西の方を見たところ．

②はしし座の方を見たところで，輻射点位置がよくわかる．中央やや右下の明るい星はレグルス．左に，McLean 氏が Stray Lion と名付けた散在流星がうつっている．

③北斗七星を背景とした流星群．この時には，43 秒間に 43 個の流星を観測したという．

なお，三井船舶の貨物船，はんぶるぐ丸に乗っておられた船員の石川利之氏は，同社の社内報に，次のように記しておられるので，一部を転載させていただく．

昨年，11 月 17 日の未明，はんぶるぐ丸は五大湖からの帰り道を急いでいました．

北緯 21 度，西経 108 度のメキシコ西岸（カリフォルニア半島の南端とマンザニア港のほぼ真中あたり）夜空はあくまで澄みわたり，雲もなく満天の星に，はるか故郷を思っていた．船橋の航海当直の人は星が白く尾を引いて水平線に落ち，その明かりが水に美しく映るのを見ました．

「大きな流れ星だなァー．」と話しているうちにまた一つ，そしてまた……あれっ！と思って船橋のデッキに出て空を仰いだら，なんと数えられぬほどの流れ星が全天を走っています．大きいもの，小さいもの，白く引く流れがほんの少ししか見えないもの，あるいは長く明るく尾を引いて声をあげて，落ちてゆくように見えるものと……．

そして，その数がたくさんなのです．一つ二つと数えられるようなのと違い，ざっと一秒に五十～六十ぐらい（いや，もっと百以上かも）とにかく降るように流れて来るのです．早朝といっても真夜中，二時ごろから始まったこの流星は，延々六時近く，明け方まで続きました．四時の当直交代で起きた我々は，空を見たとたん，全く「この世の終わりか！」と思ってゾーッとしました．

（中略）

流れ星はこの日，星座のレオ（シシ座）のアルファー星のあたりからふき出すように出て来て，全天に広がっているのがそのうちわかりました．

（後略）

1